

きらめき NEWS

VOL. 9 (2024. 3)

特別寄稿

改めて「地域を巻き込む」とは？

少子高齢化が進行し、地域のコミュニティ機能が低下する中で、県民活動をより活性化するためには、地域と連携し、巻き込みながら活動を進めることがますます重要になっていきますので、やまぐち県民活動支援センターの伊藤彰センター長に、「地域を巻き込む」方法についてご寄稿をいただきました。



伊藤 彰センター長

県民活動や地域づくりに関わっていただける方は、時々「地域を巻き込む」というフレーズを見聞きしたり、ご自身で「どうやったら地域を巻き込めるのか？」と思索されたりしたことがあるかもしれません。またその一方で、地域の人たちを巻き込むのはなかなか難しい

ということも多くの方が感じられることと思います。私の知る限りでは、「どうすれば地域を巻き込めるのか」という問いに対して「ズバリの即答」は聞いたことはあまり記憶にありません。その代わり、例えば県民活動支援や地域づくりなどをテーマとした研修の講師からは「この問い自体を見直す」という形でいくつか参考になる知見を得たことはあります。以下、その知見をご紹介します。以下、

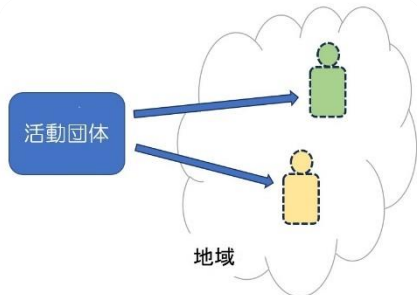
○『地域』を巻き込むとは？

ところで、「地域を巻き込んだ」とはどのような状態のことを指すのでしょうか？改めて考えてみると、直感的には「一定の地域に住むたくさんの色々な方が、自分たちの活動に関わってもらえている状態」といったイメージでしょうか。

その一方で、傍から見ても「あの活動団体は上手く地域を巻き込んでいるな」と感じる活動団体があり、当の団体によく

話を伺ってみると、必ずしも「不特定多数の地域住民」と関係を結んでいるとは限りません。どちらかと言うと、当の団体事業の対象としている「一定の層・関係者」+αの人たちと繋がっているというケースが多かったりします。

ここで紹介したいのが、以前「広報・働きかけ」をテーマとした研修の講師から示された知見です。巻き込むには「伝える」必要がありますが、講師いわく「広報はラブレターのようなもの」「広報のコツは、思いを届けたい人を明確にして、その人に届くような配慮をして働きかける」ということでした。不特定多数の人たちにラブレターを送ろうとするのが現実的でないのと同じように、まず働きかけようとする際はなるべく具体的に相手を定めて、その人や層にどうすれば届くのかを吟味するという趣旨でした。



例えば、性別、年齢層、居住地域によ

県民活動団体などに講師・アドバイザーを派遣しています



坂本 京子 さん

深川地区自治会連合会（長門市）の皆さんを対象に、坂本京子さん（（一社）レベルフリー代表/気象防災アドバイザー）が「大切なひとを守るための防災」について講演された様子をご紹介します。

地震や大雨、台風などの災害は、いつでも、どこでも、想像や予想を超えた規模・強さで起こる可能性があります。山口県でも起こりえます。自然現象は人間の力では食い止められませんが、災害による被害は、私たちの日頃の努力で減らすことができます。

まず、防災を「日常的な出来事」として普段の生活の延長線上に位置づけることがとても大切です。災害は「非日常的な出来事」なので、訓練に身が入らなかったり、真剣に取り組むことができません。だから、

防災を日常的なものにするため、日常時と非日常時の両方で役立つ備えをするなどの対策や心がけが必要です。

また、地域防災活動は、仲間づくり・まちづくりであり、日頃から自治会内で相談ができる関係作りを行うことが大切です。災害が起きた時に慌てないために、避難訓練や防災グッズを日頃から準備しておくことなどが、災害に強いまちづくりに繋がります。



専門の講師・アドバイザーが、団体の立ち上げや組織運営、相談員の研修、職場の女性活躍などにアドバイスを行っています。県民活動団体は無料ですので、お気軽にご相談ください。登録講師・アドバイザーのリストはこちら <http://www.y-kirameki.or.jp/jigyoannai/koushi-adviser>

山口きらめき財団をご支援ください

* 「ご寄付」のお願い

当財団では、多くの企業や県民の皆様からのご寄付により、幅広い分野の県民活動を支援しています。当財団へのご寄付に、ご協力をお願いいたします。

寄付の方法 手数料無料の専用の振込用紙でお振込みいただけます（振込用紙は当財団にご請求ください）

* 「賛助会員」加入のお願い

当財団の取組を応援して下さる賛助会員を募集しています。ご協力をお願いいたします。

年会費 2,000円

申込方法 手数料無料の専用の振込用紙で会費をお振込みいただけます（振込用紙は当財団にご請求ください）

■当財団へのご寄付や賛助会費は、寄付金として税の優遇措置を受けられます。詳細は、当財団へお気軽にお問い合わせください。

《助成した活動の紹介》



山の田コグトレ運動会
チャイルドサポートwith (下関市)



つころう たべろう 青空へっぴん市
あぶのべっぴん市 (阿武町)



防災イベント2023
防府市防災士等連絡協議会 (防府市)

発行

“男女が共同して参画し、文化が薫り、県民活動が広がる”
公益財団法人 **山口きらめき財団**

〒753-0082
山口市水の上町1番7号 水の上庁舎2階
TEL 083-929-3600 FAX 083-924-9096
メール info@y-kirameki.or.jp



助成事業を募集しています

当財団では、県民活動団体等の活動を支援するため、3つの助成金の申請を募集しています。募集案内や申請様式は、ホームページからダウンロードできます。応募締切は令和6年3月31日(日)です。

■「きらめき活動助成事業」助成金

地域での県民活動の一層の活発化に向けて、3つのプログラムにより支援

区分	自立支援「ゆめ」プログラム	課題解決支援「はな」プログラム	文化芸術支援「つむぎ」プログラム
目的	団体の立ち上げ・自立	地域や社会の公益的な課題の解決	秋吉台国際芸術村での文化芸術活動の振興
対象団体	設立から3年以内	過去5年間で当助成が2回以内	
助成額	15万円以内/年	50万円以内/年	
助成率	対象経費の2/3以内		

■「県民活動リレーイベント」助成金

他の団体等と協働して開催するイベントを支援

《助成対象》

県民活動団体が地域で他の団体等と協働して開催するイベントで、地域住民の県民活動への理解と参加促進を図れるもの

《助成額》 20万円以内/件

■「男女共同参画推進事業」助成金

男女共同参画を推進するための普及啓発や人材育成などの取組を支援

《助成対象》

- ①男女共同参画の普及啓発を図る事業：ジェンダー平等やダイバーシティ、女性の活躍、LGBTQなどのテーマを設定した講演やパネルディスカッション、調査研究、啓発キャンペーン等
- ②男女共同参画の人材育成などを図る事業：リーダー等の人材育成、団体の発展強化を図るためのセミナーやワークショップ、専門研修への派遣、先進団体等との交流・勉強会等

《助成額》 50万円以内/件

県民活動推進委員リレーコラム Vol.6

原田 茂樹さん
(小郡地域協育ネット協議会：山口市)

「広報紙で地域をつなぐ」

新山口駅から車で5分、30ヘクタールの圃場整備の済んだ農地に隣接した地区が私の活動地域です。春は水路の泥上げ、清掃、麦刈り、稲の田植え、秋は稲刈り、麦の植え付け、冬の農道清掃、年間を通じての除草作業を農業者と一緒にしています。これは「農業・農村の有する多面的機能」と呼ばれる事業で、農業者と共同で取り組む地域活動です。



活動の一つに、毎月1回、広報紙を発行して配布しています。何年か制作を続けていると、地域の人が私たちが制作した広報紙を大切に保管しておられることが分かりました。そこまで大切にしてください

るならと、紙媒体が無くなっても読めるようにウェブに書庫を作り、発行した広報紙を全てPDF化して閲覧できるようにしました。通算201号となった2月1日に発行した広報紙では、寒さの中で頑張った農道除草清掃作業を取り上げています。

この地区では、住民の数が増え、子どもたちの数が増えてきました。そうした流れを支えるためには、これからの担い手である若者や子どもたちに、地域の大人が「一生懸命何かに取り組んでいる姿を見せること」が大事なことではないかと思うようになりました。

どうぞ、私たちの取組の記録をご笑覧ください。



(<https://harataco.org/YKM/>)

つて、その人が生活の中で見聞きして情報に接する機会は様々に変わります(地元スーパーの掲示板?公民館の掲示コーナー?SNS?地域フリーペーパー?)。あるいは、活動団体が自主的にPRチラシを作成して配布するにしても、「どういった方に手に取って読んでもらうか」の想定次第で、その紙面の作り方も変わってきます(文字大きめ?フォントの選択は?写真やイラスト多め?数値やグラフを入れる?官公庁の協力や後援の有無?)。つまりは、「なかなか地域を巻き込めない」と思う際は、できるだけ働きかけた対象を定めて、その層の生活スタイルや日頃の動き、その地域で情報を仕入れる主な方法などによって呼びかけ方・働きかけ方を検討する、という観点が有用なのでは?という知見です。



あの人・層に届く情報の発信方法は??

○地域を『巻き込む』とは? かとや、「巻き込む」という言い方に懸念を示す講師もいました。確かに、世の中には「巻き込み上手」な方も時々いて、その人にかかると「巻き込まれる」側も望んで関わる、というケースもあります。そういった手練れによるものはレアケースでしょう。むしろ、「巻き込む」という発想は、巻き込まれる側の意図や意向はさておいて、とにかく関わりをもってもらおうといったノリになりやすく、働きかける相手の事情を汲み取りにくくなるという可能性もあります。そうなるなら、そこで生まれた繋がりが持続的な関係性に至らないかもしれません。よく、県民活動や地域づくり活動は「自主性」に基づくと言われます。その点では、「(受動的に)巻き込まれる」のではなく、「(自主的に)参加する」と思ってもらうためにどう呼びかけるか考える、といった姿勢が大切なのでは?という知見でした。以上「地域を巻き込むのが難しい」と感じた時などに参考になれば幸いです。

県民活動団体紹介

団体名 ドリームスクール実行委員会(周南市)

自分の好きなことや将来なりたい職業を選んで、ものづくりや職業体験に挑戦する子どもたちを、地域の大人たちが応援する体験型講座(美容師体験、パン教室、大工体験、消しゴムはんこづくり等)を実施しています。

今年度は新たに、干潟の保全活動と地域の活性化に取り組む「大島干潟を育てる会」と連携し、海の生き物を観察したり、ブルーカーボンなど地球温暖化防止について学びました。

小中学生25人を3つのグループに分け、船に乗って建網漁の引き上げ体験、藻場の生き物観察、干潟でのアサリ間引き体験を漁業者、海洋専門家等と行いました。

生き物と触れ合う子どもたちははさぐく楽しそうに、海や生き物について考えてくれたようでした。



団体名 柳井市白壁の町並みを守る会(柳井市)

郷土の町並み保存とより良い生活環境づくりにより、柳井市の発展を図ることを目的に、白壁通りの金魚ちょうちんのメンテナンスやイベントなどを行っています。

「白壁の町並み『再』発見プロジェクト」の一環として、柳井市の金魚ちょうちんのルーツと言われている青森県弘前市の「金魚ねぶた」づくり体験を開催しました。

子どもたちを中心とした参加者は、弘前市の職人さんからオンラインで作り方を教わりながら金魚ねぶたを制作しました。

子どもたちは、金魚ねぶたの基本色である「赤」だけではなく、ピンクや黄色で色づけるなど、オリジナルのねぶたづくりを楽しんでいました。

